

& Seig

No.

64

Jun.2026

特集

# 聖学院のこころの教育

聖学院中学校高等学校創立120周年記念

## 巻頭特集

真田幸男先生（聖学院中高元教員）と  
その教え子3名、  
現校長による特別座談会



理事長メッセージ

各校・園

同窓会紹介

聖学院各校ニュース

次代へ紡ぐ  
聖学院中高の  
オンラインワン教育



## ●理事長メッセージ

# 「聖学院らしさを未来へつなぐ」

変化の時代に教育の質を高め  
ともに築くこれからの聖学院

学校法人聖学院 理事長

田村 綾子

### 時代に即した組織と教育への改革を

2025年7月に学校法人聖学院理事長に就任しました。私は精神科病院や一般企業でメンタルヘルスの対応や障害のある方の生活支援に従事した後、2011年4月に聖学院大学に着任し、精神保健福祉士養成や障害学生支援等に携わってまいりました。

2023年より法人理事となり、昨年の理事会体制の変更に伴い理事長に選出されました。2023年の私立学校法改正により、学校法人にはこれまで以上の透明性と説明責任が求められるようになりました。理事長として、公共性・公益性を踏まえた誠実な法人運営を心がけていきたいと考えております。

また聖学院は幼稚園から大学院まで、大切な未来を担う人々をお預かりしています。園児・児童・生徒・学生たちが個性を生かしながら時代に即した力を身につけられるよう、教職員においても常に高い意識を保ち、教育改革を推進することが必要と感じております。

### AI、ICTを活用しつつ 聖学院らしい教育を保ち続ける

今年度、法人全体の入学者数が昨年度より増加しました。入学してくださった方々及び保護者の皆さまの期待に応えられるよう、教育の質向上に取り組み続けることが大切だと考えています。

近年はAIやICTの発展が著しく、教育現場における活用の在り方が問われてきています。女子聖学院中高・聖学院中高では、デジタル・トランスフォーメーション（DX）教育を積極的に進め、補助金活用による教材の整備と新しい学びの環境づくりに力を入れてきました。大学においても、昨年度よりAI/データサイエンス教育を含む全学共通教育プログラムを1年次に新規開講しました。AI時代といわれる現代、人文社会科学系大学の強みを生かした教育改革の成果が期待されます。

一方で、教育の質向上を担保する教員の研鑽も不可欠です。駒込キャンパスでは、教育デザイン開発センターの設置から6年が経過し、中高と小学校の協働によるグリーン・トランスフォーメーション（GX）、サステイナビリティー・トランスフォーメーション（SX）、DX、英語・グローバル教育等の教育探究の成果が見られています。聖学院大学の教員の知見活用による教育力の向上に向けた取組や、高校と他大学との連携も進められ、学院全体の活性化に貢献してくれるものと心強く思っています。

百二十余年の歴史を有する本法人にとって、建学の精神に基づく教育の維持に向けた改革は喫緊の課題です。神を仰ぐことよって自らの内に賜物を見出し、その賜物を人々のために生かす。この価値観は、聖学院らしさの根幹であり、堅持すべきものと考えます。

そのためにも、全ての在校生の個性を重視し、一人ひとりに光を当てた聖学院らしい教育を堅持したいと考えます。教職員が丁寧な寄り添い支える姿勢をもっていることは、本学院の強みです。一方で、DX化を図り業務効率を高めながら、人として向き合うための時間を確保する。その両立にも引き続き取り組みます。

### 聖学院に関わるすべての皆さまへ

不確定さの増す時代にあって、聖学院の各校が今の若者たちにとって自分らしくいられる場であり続けるために、ASFとして思いと力を合わせてまいりましょう。より良い学校法人としての運営に向け、卒業生をはじめとする皆さまのご知見をお借りできれば幸いです。

聖学院での学びが、今の皆さまの歩みのどこかに生きていると感じてくださるなら、ぜひ愛校心をもってお力添えを賜りますようしくお願い申し上げます。

たむら あやこ  
田村 綾子

明治学院大学大学院社会福祉学専攻博士後期課程満期修了/精神保健福祉士・社会福祉士  
2011年4月より聖学院大学に着任。人間福祉学部人間福祉学科(現・心理福祉学部心理福祉学科)准教授、教授、学科長、学部長を経て、2023年度より聖学院大学副学長、学校法人聖学院理事・評議員。  
2025年7月学校法人聖学院理事長就任。  
公益社団法人日本精神保健福祉士協会会長、文部科学省いじめ防止対策協議会・委員、厚生労働省自殺総合対策の推進に関する有識者会議・構成員、厚生労働省精神保健医療福祉の今後の施策推進に関する検討会・構成員等を歴任。

# &Talk

## 特集 聖学院のこころの教育 次代へ紡ぐ 聖学院中高のオンリーワン教育

### — 聖学院中高創立120周年記念特別座談会 —

1906年の聖学院中学校創立から120年、聖学院中高で大切にしてきたのは一人ひとりの内なる自分を大切に育てる心の教育です。聖学院中高での教育を受けて卒業した生徒たちの中に、聖学院の心の教育がどのように息づいているのか、またそれが現在の「オンリーワン」教育にどのようにつながるのか、創立120周年記念特別座談会を通してあらためて考えてみたいと思います。

## CONTENTS

01\_ 理事長メッセージ

巻頭特集

03\_ 聖学院のこころの教育  
次代へ紡ぐ 聖学院中高のオンリーワン教育

09\_ 聖学院各校・園 同窓会紹介

11\_ ASF事務局からのご報告

13\_ Seig NEWS [特別編]

14\_ Seig NEWS

27\_ 聖学院歴史探訪 [特別編]  
聖学院のバイブオルガン

## ASF NEWS No.64 アンケート

二次元コードから本誌の感想をお寄せください。アンケートに回答いただいた方の中から抽選で10名様に「聖学院オリジナルグッズ」をプレゼントいたします。プレゼントの内容は当たってからのお楽しみ！いただいたご意見は、編集の上、本誌にてご紹介させていただくことがあります。



- 有効回答期間 2026年6月25日～2026年8月31日
- 当選発表 当選者にはメールにてお知らせします。



本アンケートに関するお問い合わせ  
聖学院広報センター Tel 03-3917-8530



聖学院中高が創立以来守り続けてきた、一人ひとりの「心を育てる」教育理念、それは「オンリーワン」教育として現在も受け継がれています。様々な卒業生の中で聖学院の学びがどう息づいているのか、それをつまびらかにしたいと考え、聖学院中高創立120周年記念特別座談会を開催しました。

44年間にわたり多くの卒業生を見守り続けてきた真田幸男先生と、その教子であり各界で活躍する3名の卒業生(前田永喜さん、谷川力さん、山越忍隆さん)、自らも卒業生であり現・聖学院中高校長の伊藤大輔先生にお集まりいただき、前田さんの司会のもと、聖学院での出会いと学びがその後の人生にどのように影響を与え、今に生きているのかお話しいただきました。

## 聖学院にまつわる それぞれのエピソード

**真田** 私が聖学院中高(以下聖学院)

と関わるようになったのは、昭和32(1957)年11月。当時、私は大学生で、聖学院の軟式野球部のコーチをしていました。ある時、野球部の生徒たちから「来年からは硬式でやりたい」と相談を受けました。私は職員会議に出られる立場ではありませんでしたが、体育科の先生を通じて話す機会をいただき「子どもたちが甲子園

(※)を目指す夢を、ぜひ叶えてあげたい」とお願いしました。反対意見も多いのではと予想していたのですが、意外にも「十分に注意してやってください」とだけ言われ、硬式野球部としての活動が認められました。ただその時「あなたは軟式から硬式にして、大学を卒業したらさようなら、というわけではないよね」と言われました。

つまり、これからも聖学院で面倒を見てほしい、正式な教員になりなさい、という意味だったのだと思います。

一方で、私は青森の公立高校の体育教員になる話もあり、どうしようかと迷っていました。そんな時、聖学院の高野長生先生と岸本テル先生から「聖学院は良い学校だよ。あなたは聖学院



に勤めなさい」と言われました。「クリスチャンでなくても大丈夫」とも言っていたが、それが決め手で聖学院にお世話になろうと決めました。

**前田** 実は、その時に「硬式にしてほしい」とお願いしたのが私たちの学年です。真田先生には本当に長くお世話になりました。

私が聖学院中学校に入学したのは、小学校の担任の先生から「前田くん、ぜひ聖学院を受験しなさい」と勧められたことがきっかけでした。昭和29(1954)年のことです。

野球がやりたくて中学1年生から野球部に入りましたが、当時は軟式でした。そこで当時の畑中岩雄校長先生に「ぜひ硬式にしていだきたい」とお願いしました。しかし、費用、指導者、学校周辺の住宅環境という三つの理由で、すぐには認められませんでした。

それでもどうしても硬式野球をやりたくて、当時コーチをされていた向井正剛先生に相談しました。向井先生から「後任として来る真田先生に相談してみたらどうか」と言われ、そこから真田先生とのつながりが始まりました。

その後、葛飾区営グラウンドの使用が決まり、真田先生が聖学院に就職されたことで指導者の問題も解決しました。保護者や同級生の協力で資金面も整い、ついに高等学校野球連盟に加盟することができました。在校時代は本



さなだ ゆきお  
真田 幸男

東京教育大学体育学部体育学科卒業。1960年聖学院中高教諭、校務部長、校長補佐、副校長。2004年3月退職。その間、東京私立中高協会理事、副会長、東京都私立学校審議会委員等私学関連団体役員も務めた。2004年6月知人4名と学校における著作権二次利用申請代行を行う特定非営利法人「教育NPO」を設立、2021年9月同理事長退任。顧問就任。



まえだ ながよし  
前田 永喜

1960年、聖学院高等学校卒業（53回生）。東洋大学経済学部経営学科卒業。株式会社前田時計製作所代表取締役を務める傍ら、2003年～2007年第8代聖学院中高同窓会長として母校創立100周年記念行事を成功に導く。2013年～2017年学校法人聖学院評議員。同窓会名誉会長、特別顧問を歴任し、2024年第8代ASF推進委員長に就任。



たにかわ つとむ  
谷川 力

1976年、聖学院高等学校卒業（69回生）。麻布大学環境保健学部卒業後、イカリ消毒株式会社入社。1997年技術研究所所長、2017年取締役、2023年より名誉技術顧問。博士（獣医学）。（公社）日本ベストコントロール協会理事・技術委員長、日本ベストロジック協会会長・評議員等を歴任。



やまこし にんりゅう  
山越 忍隆

1980年、聖学院高等学校卒業（73回生）。大正大学仏教学部卒業、大正大学大学院文学研究科修士課程修了。栃木県足利市にある宗教法人鑊阿寺住職、宗教法人松葉寺住職、真言宗大日派代表役員（管長）、学校法人足利幼稚園園長・理事長、学校法人足利大学法人監事を務める。



いとう だいすけ  
伊藤 大輔

1981年、聖学院高等学校卒業（74回生）。東京神学大学大学院博士課程前期修了。銀座教会（東京）などを歴任し、現在は渋谷区代官山にある本多記念教会牧師。また、青山学院大学、高等部などで非常勤講師を務める。2021年4月より第13代聖学院中学校・高等学校校長として着任。

当に野球一筋の6年間でした。

**谷川** 私は高校から聖学院にお世話になりました。中学校まで野球部に所属していましたので、高校でも野球を続けたという思いがありました。自宅から通える範囲で硬式野球部のある聖学院を選びました。入学した時は、硬式野球ができるという喜びが大きかったですね。

ただ、実際に入ってみると練習は非常に厳しく「本当に続けられるのだろうか」と思ったこともありましたが、合宿では休む間もなくノックを受けた記憶があります。それでも続けられたことで精神的にはかなり鍛えられました。あの時代の野球部での経験は今でも自分にとって大きな財産です。

また私は生物も好きでした。生き物を扱う分野に進みたいという思いから麻布大学で生物に関わる分野を学ぶことになりました。恩師がネズミ研究の第一人者でいらしたこともあり、その流れを受け継ぐ形で、私自身もネズミの研究に取り組むようになりました。そうした研究や経験が、現在の仕事にもつながっています。今は、害虫駆除に関わる分野で仕事を続けています。

**山越** 私が聖学院高校を受験したきっかけは、大阪からの県外受験でした。父の仕事の関係で大阪に住んでいた期間が長く、小学校・中学校は大阪で過ごしました。

東京方面へ戻ることになり、高校受験を考える中で、母が「ミッション系

の学校が良いのではないかと聖学院を勧めてくれました。私は小さい頃から聖学院と同じプロテスタントの日曜学校に通っていましたので、その点でも安心感がありました。

中学時代から野球をやっていましたので聖学院でも野球を続けました。私にとって聖学院での生活と野球は切り離せないものです。

その後、叔父がお寺をしていたこともあり、大正大学へ進み、現在は僧籍にあります。自分の出身がお寺ではありませんでしたので、まったく違う畑に入る苦労は大きいものでした。ただそうした中でも続けてこられたのは野球を通して培われたものがあつたからだと思っています。

私の根本にあるものを考えるとやはり聖学院での野球部での経験です。それが今の自分にも深く残っています。

**伊藤** 私は野球部ではありませんので少し違う立場からの話になります。

聖学院は、何か一つの所属や立場に強く縛られる学校ではなかったと思います。クラブに入っているか、誰かとグループを組んでいるか、そういうことで人を色分けする雰囲気がありませんでした。グループで行動していても、個人でいても、その時々で同じ目的があれば自然に一緒に行動できる。必要な時には自然にまとまる。そういうところが私にとってはとても居心地が良かったです。それぞれのあり方を大らかに受け止める。聖学院には

そういう包み込むような雰囲気がありましたし、今もあるのではないかと思っています。

また聖学院で身についたことの一つに「腑に落ちないことをそのままにしない」という姿勢があります。権威のある人が言っているからといって、そこで思考を止めるのではなく、自分の中で本当に納得できるまで考える。そういう姿勢は聖学院で育まれたものだと思います。

## 聖学院教育憲章と「オンラインワン」教育

**前田** 2000年に、全教職員参加

による聖学院教育会議が行われました。その成果として、2002年に「聖学院教育憲章

（※2）」が制定されたと、聖学院中学校高等学校百年史（※3）にも記されています。

私たち卒業生にとっては、直接その過程を知る機会はありませんでしたが、真田先生、そのあたりのお話をお聞かせいただけますでしょうか。

**真田** 大木英夫理事長（当時）就任後、様々な会議が発足しました。その一つに理事長校長会という各校長園長が参加し、各校の取り組みを報告しお互い良いものは共有していこうという



会議がありました。大木理事長は、聖学院の教育がどうあるべきかということとその会議でまとめたいという想いを持っておられました。

2000年の冒頭、私は大木理事長に呼ばれ「聖学院の教育憲章制定を目指す教育会議というものを考えている。事務方の総幹事として運営をしてほしい」とお声がけいただきました。大木理事長から命を受けた私はまず、過去の理事長校長会の内容を取りまとめました。すると聖学院の教育を考える上で重要となる大まかな項目が見えてきました。それを叩き台として学長校長会に提案し、そこから全教職員参加の教育会議が始まりました。原案については当時の理事の一人が作られたのではないかと思います。その原案を、理事会を含めさらに練っていき2002年に教育憲章が発表されました。

その中に「オンリーワン」教育という言葉が入ってきました。実はこの言葉は、教育会議より少し前、1997年頃に、当時の林田秀彦校長が受験生や保護者を対象とした説明会で初めて使われたものです。

その背景には、私が学習塾を回っていた時の経験がありました。ある塾の先生から、「聖学院がキリスト教主義の学校であることは分かっている。ただ、保護者の中には『神を仰ぎ人に仕う』という言葉を見ると、少し身構えてしまう方もいる」と言われたので

す。聖学院にいる私たちにとっては当然の言葉でも、初めて触れる方には少し難しく感じられることがある。そこで、もっと子どもにも分かりやすい、やさしい言葉が必要なのではないかという話になり、その時に出てきたのが、林田先生の「オンリーワン」教育でした。「ナンバーワン、誰かと競争するのではなく、その子の中にある一番良いものを見つけ、それを伸ばしていく」。これは小学校5年生にも分かる言葉です。私は「これは伝わる」と感じました。その後、パンフレットにも掲載し、受験生や保護者、学習塾の先生方にも配布しました。反応はとても良かったです。

そして教育憲章をまとめる段階で、この「オンリーワン」教育が入ることになりました。その時に理事の一人の先生から「そこに『フォーアザーズ』を加えるべきではないか」という提案がありました。自分らしさを伸ばすだけでなく、それを他者のために生かしていく。子どもたちにとっては少し難しい言葉かもしれませんが、聖学院の教育を表すうえで、欠かせない考え方だと思います。

そうして、聖学院教育憲章が形になりました。私は、教育憲章の中に「オンリーワンフォーアザーズ」という考え方が入ったことは、とても良かったと思っています。

**前田** 伊藤校長先生、現在の聖学院中高においても「オンリーワン」教育は

引き継がれていると思います。現役の校長として、この「オンリーワン」教育をどのように受け止めていらっしゃるのですか。

**伊藤** 私も学校説明会などで「オンリーワン」という言葉を使っています。真田先生がおっしゃったように「オンリーワン」は「ナンバーワン」とは違います。ナンバーワンという言葉には必ず他者との競争があります。誰かと比べて一番になる、という考え方です。一方で、オンリーワンは他者との比較ではありません。自分自身の中にあるものを見つめ、それをどう育てていくかということなのです。

ただ、そこで大切なのは、「これが自分だ」と思っているものも、本当にそうなのかと問い直すことだと思っています。私たちは、自分の価値観や考え方だと思っているものの中に、実は周囲から与えられたものや、社会の固定観念が貼り付いていることがあります。

だからこそ、「これは本当に自分なのか」「自分が大切だと思っているものは、本当に自分の中から出てきたものなのか」と、絶えず問い続けることが大切です。最近の教育の言葉で言えばメタ認知(※4)に近いものかもしれません。

聖学院は、そうした問い直しを、長



## 心を動かす、聖学院中高のオンリーワン教育

### 聖学院オリジナルの「総合的な学習の時間」

聖学院中学では、学年ごとに探究型体験学習プログラムを実施しています。中学1年生はL. T.(Learn, Live Together)として、「命の大切さ、良好な人間関係の構築」というテーマでのワークショップ、中学2年生は北アルプス蝶ヶ岳登山、中学3年生は糸魚川農村体験学習に取り組みます。事前学習の中で各自の「問い」を設定し、体験を通して答えを探し、体験後に自分の中で生じた変化を共有します。心が動いた先に新たな「問い」が生まれ、それが「自分とは何か」を思考する力につながります。



い歴史の中でずっと大切にしてきた学校だと思っています。

もう一つ、私が大切だと思っているのは「この世界は良いものだ」というところから出発することです。人は、この世界を怖いものだと思うと、何かにしがみつきたくなります。お金がなければ、偏差値がなければ、学歴がなければ、名誉がなければ、と不安になります。

しかし聖学院は「この世界は良いものだ」という信頼から始まっている学校だと思っています。だから、何かに怯えなくていい。自分の存在を守るために、無理に何かにしがみつかなくていい。オンラインワン教育とは、自分だけの個性を主張することではなく、自分を縛っているものに気づき、本当に自分らしく生きる力を育てることではないかと思っています。

**前田** 山越さんは、ミッションスクールである聖学院で学ばれた後、現在は仏教の世界におられます。今のお話を聞いて、どのように思いましたか。

**山越** 仏教にしてもキリスト教にしても、宗教によって入り口は違います。ただ目指す方向には、どこか共通するものがある



のではないかと、最近考えるようになりました。禅であれ念仏であれ真言であれ、入口は違ってても、一つのこと

を深く極めていくと、最終的には同じようなところにたどり着くのではないかと。神であって仏であって人も、人が向かおうとする大切なものには共通するものがあるように感じています。そういう意味では、何であってても、一つのことをしっかりと極めることが大切なのではないかと思っています。

また、最近の私は、いろいろなものを捨てていくことを考えるようになりました。人はあまり多くのものを持ちすぎると、それに縛られてしまします。ですから必要なものを少しずつ手放していく。もちろんお寺は捨てられませんけれども（笑）。生活の中でいらぬものを整理していくようにしています。

そうして削ぎ落としていくと最後に残るのは自分自身です。それで良いのだと思います。真実は外にあるのではなく自分の心の中にある。オンラインワンという考え方も、私には自分の中にある本質を見つめていくことのように感じられます。

**前田** 谷川さん、私たちが在校していた頃には「オンラインワン」教育という言葉はありませんでした。今の伊藤校長先生や山越さんのお話を聞いてどのように感じられますか。

**谷川** 私も改めて、自分はそういう教育を受けてきたのだなと感じました。当時は「オンラインワン」教育という言葉はありませんでしたが、聖学院の中で育てられてきたものは、確かに自分

の中に残っているのだと思います。

私の会社は、有害生物を扱う仕事をしてきました。ただ「有害生物」という考え方自体も、人間が作ったものです。人間にとつて都合が悪いから有害と呼んでいるだけで、地球上に生きる生物という意味では、本来はその生き物も平等であるべきではないかと、最近考えるようになりました。

仕事としては、どうしても駆除や対策をしなければならぬ場面があります。しかし、良い生き物、悪い生き物と簡単に分けるのではなく、その生き物がなぜそこにいるのか、どう生きていくのかを考える。そういう視点を持つことが大切なのではないかと感じています。そう考えると「有害生物」という価値観そのものを一度疑ってみることも「オンラインワン」教育に通じるのかもしれない。



**前田** 聖学院の卒業生は、卒業後、本当にさまざまな進路に進んでいます。長く聖学院で多くの生徒を見守り、社会へ送り出してこられた真田先生の中には、聖学院の理念はどのように映っていますか。

**真田** 聖学院の成り立ちを考えると、もともと非常に自由度の高い学校だったのだと思います。

明治の後半、聖学院中学校の設立

## タイ研修旅行

1988年から続くタイ研修旅行。参加した生徒の心にさまざまな葛藤を生む聖学院中高独自の海外研修プログラムです。毎年30人ほどの生徒が、タイ北部の山岳少数民族を支援するメーコック財団を訪れ、親のいない、中には戸籍も持たない子どもたちと寝食を共にします。日本と異なる文化に触れ、経済格差や自然破壊などの社会問題を目の当たりにするとともに、その解決のために働く人々に出会うことで、「自分に何ができるのか」を考える契機となっていきます。



時、石川角次郎先生は聖書を授業の教科には入れない形で文部大臣に申請しました。もちろん、キリスト教主義の学校であることは大切です。しかし教科として聖書を教えることにこだわるのではなく、キリスト者である教師の人格を通して、生徒たちを教育することを重んじたのです。

私はそこに聖学院らしさがあると思います。教科や制度で縛るのではなく、教師のあり方や学校全体の雰囲気を通して、生徒たちの人格形成に影響を与えていく。その自由さ、余裕のよくなものが、聖学院には最初からあったのではないのでしょうか。

その結果、聖学院には本当に幅広い生徒が集まるようになりました。勉強が得意な生徒もいれば、勉強以外のことに力を発揮する生徒もいます。彼らが社会に出てからどうかというと、どの生徒もまったく問題ありません。在学中の姿からは想像できないほど立派になっていく卒業生がたくさんいます。

私は長く野球部の顧問をしていましたので前田さんをはじめ、古い野球部のOBとも今でもお付き合いがあります。そうした卒業生を見ると、学校の成績や試験の点数だけでは人の将来は測れないのだとつくづく思います。

学校ではどうしても試験の点数で順番がつかます。しかし社会に出てから大切になるものはそれだけではありません。

せん。聖学院で育まれた自由さや自分らしさを大切にする姿勢がそれぞれの場所です。生かされているのだと思います。

## 「オンラインワン」教育の未来への継承

**前田** 真田先生がよくおっしゃる言葉に「この井戸の水を飲む者は、井戸を掘った人の苦勞を決して忘れてはいけません」というものがあります。私も在校中からこの言葉を耳にしてきました。

教育の理念の中には、そうした先人の歩みを忘れないという思いがあると思います。一方で、これから未来を生きていく生徒たちに対して、私たちは何を期待していくのか。それぞれの人生経験や職業を通して得られたものも踏まえて、未来の聖学院に期待することをお話したいだけだと思います。

**山越** 私は人々を思いやる心が一番大事だと思っています。これからの時代は、AIを含めてAGIのように人間の知能を超えるものも出てくると言われています。そうなった時に人間にできることは何なのか。そう考えると、結局は人のために尽くすこと、そして人を思いやる心を持つことではないでしょうか。

知識をどれだけ詰め込んでも、これからはAIにかなわない部分が出てくるかもしれません。だからこそ、宗教

教育や情操教育も含めて、人を思いやる心を育てることが、教育の原点としてますます大切になると思います。

人の痛みを感じることが出来る。相手のために何が出来るかを考えることができる。そういう心を育てる教育をこれからも聖学院には大切にしていきたいと思っています。

**谷川** 私は聖学院の自由度の高さがとても良かったと思っています。その自由な雰囲気は今でも自分の中に大きく残っていますし、本当にありがたかったです。感じています。もちろん社会に出れば上下関係があります。法律もありますし、さまざまな規律もあります。

そうしたものを理解し守ることは当然大切です。ただ、その一方で型にはまりすぎない自由さも必要だと思っています。規律を知った上で、それだけに縛られず、自分で考え自分のあり方を見つけていく。その自由度を理解できる人間を育てることはとても大切ではないでしょうか。

聖学院にはそういう自由さを受け止めてくれる空気がありました。型にはめてしまうのではなく、それぞれが伸びていける余地がある。私はそこに聖学院の良さを感じています。

これからもその自由な校風を大切にしながら、生徒たち一人ひとりの可能性を伸ばしていってほしいと思います。

**前田** 私自身の経験で言いますと、高校3年生の時に教会高校生スクールの

合宿に参加したことがありました。山中湖で4泊5日行われたもので、全国から高校生の男女が70人から80人ほど集まりました。私は埼玉県の大宮に住んでいましたので、埼玉県代表という形で参加しました。キャンプファイヤーでは自分がリーダーシップを取り楽しい時間を過ごしたことを今でもよく覚えています。その時に会った友人の中には今でも年賀状のやり取りをしている方がいます。聖学院で学んだからこそ、そうした出会いや経験があったのだと思います。

また聖学院で本当に良い先生方に出会えたことも私の人生にとって大きな財産です。ありがたい恩師に出会えたことが、今の自分にとって大きな支えになっています。聖学院の教育の原点には自由な校風と人との出会いを大切にする姿勢があるのではないかと感じています。

伊藤校長先生、生徒として聖学院で学ばれ、今は教える立場、また牧師としても歩んでこられたお立場からこれからの聖学院の教育についてお聞かせください。

**伊藤** 基本的には何も変わらないと思います。これまで通りです。ただその表現の仕方は時代に応じて変わっていくのだと思います。

かつて石川角次郎先生は「聖人」<sup>(※)</sup>という言葉を使われました。その後、林田先生がそれを「オンラインワン」という言葉で表現されたのだと思

います。真田先生がおっしゃる通り「聖人」という言葉は少し難しい。だからより伝わりやすい言葉として「オンラインワン」を使われました。

今、私が理念を説明するうえで使いたいと思っている言葉に「主体性」があります。似た言葉として「自主性」という言葉がありますが、自主性と主体性は違います。自主性というのは、言われたことを自分から進んでやることです。もちろんそれも大切です。社会人として組織の中で生きていくうえでは自主性は必要な力です。

しかし自主性だけでは新しい状況には対応できません。世界も社会もこれからますます変わっていきます。その時に必要なのは、誰かに言われたから動く力ではなく「今ここで自分がしなければならぬことは何か」を自分で判断する力です。それが、私の考える主体性です。

主体性とは、自分の中に規律を持つことです。ギリシャ語で言えば「ノモス」、つまり法です。外から与えられたルールだけではなく自分の中にある法に従って生きる。その意味では「主体性」も「オンラインワン」も「聖人」も根本では同じものだと思っています。ですから表現は変わっても軸は何も変わっていません。

そして私は、本当に自分のノモスを持っている人間は戦争をしないと思っています。自分の中に確かな軸を持ち他者を力で支配しようとしないう人間が

育てば、平和に近づくことができる。人類はまだ平和を実現できていませんが、それでも聖学院は平和を信じてきた学校です。自分の中に確かな軸を持ち、他者と共に生きる人間を育てる。聖学院は120年間、それを目指してきたのだと思いますし、これからもそこを大切にしていきたいと思っています。

真田 「オンラインワン」という言葉について言えば、林田先生は「こころの教育」というテーマの中で、この言葉を使っていました。

林田先生は、聖学院の柱は「こころの教育」であるとして、四つの項目を挙げておられました。一つ目が「ナンバーワン志向からオンラインワン志向へ」です。誰かと比べて一番になるのではなく、その人自身の中にある良いものを伸ばしていくということです。二つ目は「ホモ・サピエンス」、理性のある人間です。三つ目は「ホモ・フアーベル」、行動する人間。そして四つ目が「ホモ・パティエンス」、悲しみを知る人間です。

私はこの四つ目の言葉が特に深いと思っています。子どもが何かを見て「悲しい」と感じそれを言葉にして訴えてきた時、その子は大きく成長しているのだということです。悲しみを知ることができる人間になる。それを認めていくことも聖学院の心の教育なのだと思います。

林田先生はそうした心の教育を目指

しているのだと学校説明会で話されました。私は今振り返っても本当にすごい言葉だったと思います。

聖学院が大切にしてきた心の教育、そして一人ひとりの中にあるものを見つめて伸ばしていく教育は、これからはぜひ教育の方向として残していただきたいと思っています。

前田 本日はありがとうございました。聖学院中高のご発展を祈り、創立120周年記念座談会を終わりたいと思います。

（取材日／2026年4月）

※1 甲子園

公益財団法人日本高等学校野球連盟に加盟している高等学校の野球部が、教育の一環として日本一を目指す大会、硬式野球部のみ加盟できる。

※2 聖学院教育憲章

学校法人聖学院HP 建学の精神・教育憲章。  
(<https://www.seig.ac.jp/about/mission/>)

※3 聖学院中学校高等学校百年史

真田幸男先生が編纂し、2007年3月に発行された聖学院中高百年の歴史をまとめた書籍。

※4 メタ認知

自分の考えや感情、行動を客観的に捉え、適切に修正・改善できる能力。  
(参考: <https://achievement-hs.co.jp/rtrior/relacognition/>)

※5 聖人

石川角次郎聖学院中学校初代校長の言葉より、キリスト信者、キリストの弟子を表す。「われらは君が学院を「聖学院」と名づけた。その意義は、聖なる学院ではなく、聖学の院である。聖学とは聖人の学である。聖人の学とは、聖人の教えを学ぶばかりでなく、学んで聖人となるのである。そうであれば本校の理想は聖人を養成することである。（二十二年の回顧）、「権稜」第十号、1926年」（聖学院中学校高等学校百年史P13-16）



# 同窓会紹介

聖学院各校・園の  
同窓会活動についてご紹介します。



聖学院小学校

## 聖学院小学校同窓会 「ぶどうの木」

設 立 1991年

代表者 勝倉 雄二

<https://primary.seigakuin.ed.jp/category/graduate-news/>

### ●2025年度の主な活動報告

- ・4月12日 代議員会開催
- ・6月14日 ぶどうの木総会開催
- ・9月20日 聖学院フェアへの参加

### ●2026年度の主な活動予定

2026年度も昨年に引き続き、代議員会開催、総会開催、聖学院フェアへの参加を予定しています。

2026年は、久しぶりに小学校を離れて会員総会を開催いたします。「ぶどうの木」の会員総会は、後援会総会との同時開催ですので、後援会員である保護者の皆様にもご参加いただける総会となっております。

また、会員の皆様とのコミュニケーション手段のスピードアップと多様化を目的として立ち上げた、ぶどうの木の公式Lineページは登録いただいている方の数を順調に増やしております。今後とも積極的に活用して情報を提供していきたいと考えております。

### ●卒業生へのメッセージ

聖学院フェアの同窓会コーナーでのお手伝いなど、ぶどうの木の活動にご参加いただける方を広く求めています。詳細は、ホームページ、公式Lineでご案内いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



女子聖学院中学校・高等学校

## 女子聖学院中学校・ 高等学校「翠耀会」

設 立 1918年

代表者 大塚 明子

<https://www.joshiseigakuin.ed.jp/suiyoukai/>

### ●2025年度の主な活動報告

2025年度の総会は、第二部に翠耀会館でコーラスを楽しむ同窓生の皆さんのグループにご出演いただいた事もあり、出席者が大幅に増加しました。記念祭のバザーへの献品のご協力にも感謝いたします。卒業生と祝うクリスマスには多くの若い皆さんもご参加くださり、お子さんの声も聞かれる和やかなクリスマスとなりました。参加者には第6代校長で長年聖書研究会の講師を担われた小倉義明先生の随想と聖書のお話をまとめた冊子「憶えられている」がプレゼントされました。

### ●卒業生へのメッセージ

2026年4月に134名の中学1年生が入学、5月から購買部の利用が可能になると、翠耀会館1階の食堂は元気な声が響きとても賑やかです。聖書研究会は講師の佐野正子先生のご都合で毎月曜日10時30分からに変更となりました。皆さんのご参加をお待ちいたしております。今年も同期会の集まり等、翠耀会館や母校をご利用くださいますよう、ご案内いたします。



創立120周年記念で整備されたオリーブテラス内部



2026年度総会 パイプオルガンコンサート



聖学院中学校・高等学校

## 聖学院中学校・ 高等学校同窓会

設 立 1926年

代表者 大徳和人

<https://seig-boys.net/>

### ●2025年度の主な活動報告

2025年度の大きな出来事として、長谷川文彦先輩（第58回生）の多大なるご厚志により、本校グラウンドが人工芝へと生まれ変わり、2025年10月31日に竣工記念式が執り行われました。母校の環境が大きく向上したことは、同窓生一同にとりましても誠に喜ばしいことであり、在校生たちが生き生きと校庭を駆け回る姿に、その意義の大きさを実感しております。

また、11月1日・3日開催の創立119周年記念祭において、同窓会ブースならびに学院資料展示室に多くの卒業生・在校生・保護者の皆様にお立ち寄りいただきました。世代を超えた交流の機会となりましたことをうれしく思っております。

### ●卒業生へのメッセージ

2026年度は、同窓会創立100周年、母校創立120周年という、大きな節目の年を迎えます。同窓会ではこれを記念し、「同窓会創立100周年記念式典」を開催します。これまでの歩みへの感謝と、これからの未来への新たな一歩を、多くの同窓生と共に分かち合いたいと存じます。

同窓会はこれからも、「より開かれた同窓会」「帰りたいときに帰れる同窓会」を目指し、活動を続けてまいります。そして、私たちの想いをひとつにする合言葉は――

「WE ARE SEIGAKUIN!」

今後とも、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。





※住所変更等の連絡は、各校・園の同窓会、事務局、  
またはASF事務局までお知らせください。  
ASF事務局：03-3917-8530（月～金 9:00～17:00）  
pr\_h@seigakuin-univ.ac.jp



聖学院広報センターnote公式アカウントで、  
卒業生の紹介記事を配信しています。  
ぜひご覧ください。



聖学院みどり幼稚園

## 聖学院みどり幼稚園 同窓会

設 立 2007年  
代表者 小山 浩史  
<https://midori.seigakuin.ed.jp/>

### ●2025年度の主な活動報告

#### ・同窓会

7月の海の日に毎年開催しています。  
毎年多くの方にご参加いただいています。  
同窓生の親と子ども、親子3代でご参加され  
る方、退職された先生もご出席されて、  
昔ばなしに花が咲きます。

・年長お泊り保育のお風呂に同窓生が協力  
7月の年長生のお泊り保育の際に、幼稚園  
の方で近隣に住む同窓生や幼稚園関係者  
のお家を訪ね、お風呂に入らせてもらうと  
いうおもしろい試みをここ数年行っていま  
す。初めは園児も緊張していますが、次第に  
打ち解け、良い交流の場となっています。

#### ・フェスタ

大学のヴェリタス祭と同日に開催していま  
す。  
飲食物と雑貨の販売、ワークショップ、幼  
稚園での活動の様子のアルバム展示を  
行っています。（アルバムは第1回の入園生  
の分からあります）

### ●2026年度の活動予定と 卒園生へのメッセージ

主な活動は下記になります。

- ・つくしの会（4月29日）
- ・同窓会（7月20日）
- ・フェスタ（10月31日）

### ●卒業生へのメッセージ

皆様のご参加をお待ちしております。



聖学院大学

## 聖学院大学 同窓会

設 立 1993年  
代表者 島田 大輔  
<https://www.seig-dousou.com/>

### ●2025年度の主な活動報告

#### ・会報誌の発行

同窓会会報誌「CROSS POINT Vol.  
35」を10月に発行し、同窓生へ送付しまし  
た。

#### ・ヴェリタス祭への参加

ヴェリタス祭で、ホームカミングの場として  
毎年行っているカフェを今年も実施しまし  
た。

・ボランティア、まちづくり活動助成事業へ  
審査員として参加  
学内の学生ボランティア団体の活動助成  
を同窓会が支援しており、その公開審査会  
へ審査員として参加しました。

### ●2026年度の活動予定

- ・11月に行われるヴェリタス祭においてホー  
ムカミングの実施を検討しています。
- ・同窓会会報誌「CROSS POINT Vol.36」  
の発行を計画しています。

### ●卒業生へのメッセージ

同窓会では一緒に活動していただける役員を  
募集しています。活動にご興味のある方は  
ホームページのお問い合わせフォームよりご  
連絡いただけたらと思います。



聖学院幼稚園

## 聖学院幼稚園 同窓会

設 立 1972年  
代表者 本橋 喜久子  
<https://kinder.seigakuin.ed.jp/>

### ●2025年度の主な活動報告

20歳になった卒園生（2011年度卒）のホー  
ムカミングを3月20日（金・祝）におこないま  
した。

この学年は聖学院幼稚園の大移動の時に年  
長組でした。東日本大震災後の建物検査によ  
り急な園舎建て替えとなり、クローソンホー  
ルをお借りしての保育で数か月過ごし、秋か  
らは女子聖学院前の仮設園舎に2度目のお引  
越し。卒園式は聖学院幼稚園が誕生した場所  
のクローソンホールで行い、巣立っていった  
子どもたちです。

大きくなった卒園生と保護者の方、旧職員の  
先生方が集ってくださり、近況報告や懐かし  
い話をしうれしい再会の時となりました。  
参加出来なかったみなさんのことも覚え、いつ  
の日か再会できますようにとお祈りしました。

### ●2026年度の活動予定

20歳になった卒園生（2012年度卒）を迎え  
るホームカミングを2027年3月に開催予定  
です。2027年1月にお知らせのハガキを卒園  
時の住所にお送りします。お返事をお待ちし  
ています。

### ●卒園生へのメッセージ

卒園生のみなさん、お元気にお過ごしです  
か？それぞれの道を歩まれていることと思い  
ます。忙しい毎日を過ごされているかと思い  
ますが、ホームカミングで幼稚園に帰ってき  
ませんか！同級生や先生たちに出会って、子  
どもの時を思い出して、懐かしいつながりに  
また触れてもらえたらと思っています。

保護者の方の参加も大歓迎です。（保護者の方  
のみの参加も毎年いらっしゃいます）ぜひ、幼  
稚園にお帰りください。お待ちしております！



# 皆様の温かいご支援に 心より感謝申し上げます

## 2025年度 ASF募金総額

614件  
3億4,690万6,470円

(2026年3月31日現在)

2025年度も、各校同窓会、PTA、後援会等の団体、関係企業、また卒業生、保護者等多くの皆様にご寄付をいただき、心より感謝申し上げます。女子聖学院中高が創立120周年を迎え、オリーブテラス（生徒ラウンジ）の整備、120周年記念誌発行等の記念事業を実施しました。

2026年度、聖学院中高が創立120周年を迎えました。聖学院各校での学びがさらに充実していくよう、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2025年度募金実績報告と寄付者御芳名については、ASFホームページにてご紹介しています。こちらをご覧ください。



| プロジェクト区分             | 2025年度合計 |             |
|----------------------|----------|-------------|
|                      | 件数       | 金額(単位:円)    |
| 教育および施設設備充実(大学院)     | 17       | 608,000     |
| 教育および施設設備充実(大学)      | 167      | 43,105,826  |
| 教育および施設設備充実(聖学院中高)   | 107      | 197,444,106 |
| 教育および施設設備充実(女子聖中高)   | 141      | 75,816,240  |
| 教育および施設設備充実(小学校・幼稚園) | 94       | 26,436,525  |
| 教育および施設設備充実(みどり幼稚園)  | 58       | 478,773     |
| 奨学金(大学)              | 15       | 51,000      |
| 奨学金(聖学院中高)           | 10       | 2,388,000   |
| 奨学金(女子聖中高)           | 4        | 68,000      |
| 奨学金(小学校)             | 1        | 510,000     |
| 合計                   | 614      | 346,906,470 |

※各校のプロジェクトにいただいた寄付は該当校の事業に用いさせていただきます。

## 2025年度 実施事業の一部をご紹介します

### 教育および施設・環境設備充実

#### ●聖学院大学

体育館空調設置／4号館2階4202教室改修／教授会室AV設備更新 ほか

#### ●聖学院中高

グラウンド人工芝化工事／バッティングケージ、ピッチングマシン購入／講堂吊り天井耐震対策工事／LED照明改修工事 ほか

#### ●女子聖学院中高

教室棟GHP空調更新工事／Webサイトリニューアル／120周年記念事業関係 ほか

#### ●聖学院小学校・聖学院幼稚園

児童・園児用楽器購入／園児用テーブル購入／図書館・教室棟全熱交換器補修／チャペル音響プロセッサー補修 ほか

#### ●聖学院みどり幼稚園

園庭ウッドデッキ設置／園児用ワンタッチプール購入 ほか

### 奨学金

#### ●聖学院中高／女子聖学院中高／聖学院小学校

奨学金として、計10件支給

## Topics

1

### 聖学院中高 人工芝グラウンド完成！

2025年度、卒業生の長谷川文彦様（聖学院中高第58回卒）のご寄付により、聖学院中高グラウンドの人工芝化が実現しました。水はけがよく、雨が降った後でもすぐに使えるようになり、体育の授業やクラブ活動での利用だけでなく、休み時間に多くの生徒がグラウンドに出て走ったり寝転がったりする姿が見られるようになりました。ご寄付に心から感謝いたします。（人工芝グラウンド竣工記念式については本誌P13をご覧ください）



2

### 女子聖学院創立120周年記念事業

女子聖学院創立120周年を記念して、様々な事業が行われました。2025年5月、女子聖学院教育後援会のご支援により、クローソンホール内に生徒が自由に使えるラウンジが設置されました。「オリーブテラス」と名付けられ、生徒手作りのサインボードが掲げられました。休み時間や放課後に多くの生徒が利用する憩いの空間となっています。

10月29日（水）には、全校生徒が一堂に会して創立120周年記念式典が執り行われました。11月1日（土）・3日（月・祝）第120回記念祭を開催、また、11月には城築昭雄先生編纂の「女子聖学院の歴史1988年～2020年」が刊行されました。（「女子聖学院の歴史」についての詳細はP13をご覧ください）



### 2026年度 寄付者プレゼントのご案内

2026年度、年間の寄付額が1万円以上の方に、onagawa fish×聖学院オリジナルファスナーチャームをプレゼントします。また、年間の寄付額が10万円以上の方に、聖学院オリジナルロゴ入りサーモス水筒を差し上げます。（※個人の方対象、年度内1回のみ）



### 2026年度ASF募金へのご協力をお願いいたします



※郵便振込、クレジットカード、銀行振込（ペイジー）、コンビニ支払が可能です。また、個人・法人共に税制上の優遇措置を受けることができます。詳しくはこちらをご覧ください。

**Special News 聖学院中高グラウンドが人工芝にリニューアル！ 竣工記念式を挙行了しました**

2025年秋、聖学院中高グラウンドの人工芝化工事が完了し、10月31日（金）に、寄付をくださった長谷川文彦様（聖学院中高第58回卒業生）や施工会社の皆様をお招きして、竣工記念式を挙行了しました。記念式の中で、記念プレートの除幕式や長谷川様による始球式、感謝状の贈呈式などが行われました。生徒を代表して聖学院中学と高校の生徒会長も出席し、グラウンドの完成を関係者一同で祝う時となりました。人工芝化されたことで、天候に左右されずに体育の授業やクラブ活動に打ち込める環境が整いました。



竣工感謝礼拝



記念プレート除幕式



全員で記念撮影

**Special News 120周年記念誌『女子聖学院の歴史 1988～2020年』を刊行**

2025年11月15日、女子聖学院の120周年を記念し、『女子聖学院の歴史 1988～2020年』が刊行されました。本記念誌の編著者であり、長年教員として女子聖学院の教育に携わってこられた城築昭雄先生に、本記念誌制作の舞台裏と女子聖学院の魅力についてお話をうかがいました。

**城築昭雄先生**

1980年より女子聖学院の数学科教諭として長年教鞭を執る。専門は微分方程式。2003年より校長補佐に就任。退職後、編著者として約5年の歳月をかけ、120周年記念誌『女子聖学院の歴史』の編集・執筆をほぼ一人で完遂した。



城築昭雄先生

「約5年にわたる編集作業は、ほぼ一人での執筆となり、資料集めには大変苦労しました。特に創立当初からの在籍者数を戦前の古い名簿から1つずつ数え上げ、正確に算出する作業には1年以上を費やしました。個人の記憶には頼らず、徹底して客観的な資料に基づき、様々な出来事をその後の改革へとつながる歴史の一部として、ありのままに記述することにこだわりました。

編集を通じて改めて実感した女子聖学院の魅力は、その根底に流れるキリスト教の礼拝と平和教育の深さです。生徒たちの平和を願う真摯な言葉や、教師と対等に議論し自らの手で築き上げてきた生徒主体の校風は、本校ならではの宝物だと再確認しました。学校生活のルールも生徒自身が考え、教師と話し合ってきた歴史があります。この自ら考え行動する力こそが女子聖学院の真髄です。

制作を通じ、本校が多くの人々の祈りと奉仕に支えられてきた歴史を実感しました。これからも、礼拝を中心にした一人ひとりを大切にする教育が、変わることなく受け継がれていくことを願っています。」

まだまだあります！

# Seig NEWS

学生も生徒も教員も職員も  
次のステップへと  
日々新しい試みをしています。

— 聖学院各校・園から寄せられたニュースをお届けします —

## 聖学院大学



「スポーツの力で町おこし！ 激戦を目前で想いを“つなぐ”プロジェクト」と題して活動を発表。地元プロチームへの具体的な施策提案と実行プロセスが、実践的な学びの成果として高く評価されました。

### 政治経済学科の学生たちが 「社会人基礎力育成グランプリ (東北・関東地区予選大会)」で優秀賞(2位)受賞

聖学院大学は、地域社会を学びの場とする実践的な教育に力を入れています。その成果の1つとして、2026年2月に開催された「社会人基礎力育成グランプリ」の地区予選大会にて、本学の学生チームが「優秀賞(2位)」を受賞しました。

学生たちは、地元上尾市を拠点とする女子バレーボールチーム・埼玉上尾メディックスと「インターンシップPBL型(課題解決型)」授業を通じて連携。若年層のファン獲得という課題に対し、現役の学生ならではの視点で無料観戦キャンペーンやSNS施策を立案・実行しました。地域とプロスポーツをつなぐこの取り組みは、現場で汗をかけた学生たちの行動力や、プロジェクトを通じて得られた成長、そして地域への貢献度について高い評価をいただきました。

## 聖学院大学総合図書館

### 聖学院大学総合図書館の学生協働活動 と学修支援

図書館では、学生と職員が協力して様々な学生協働活動を行っています。その1つに絵本よみかせグループ「こもれび」があります。保育士や図書館司書の児童サービスに興味のある学生たちが中心になり、週に1回集まって絵本の読み聞かせや手遊びの練習を行い、近隣の公共図書館や児童館などで絵本の読み聞かせ会を開催しています。今年度は、留学生も加わり、更に活動の幅が広がりそうです。

学修支援という点では、1号館にあったラーニングセンターが2026年4月から図書館2階に移設されたことが大きなニュースです。英語の個別指導やレポートの書き方・添削指導、留学生の日本語の個別指導などを行うラーニングセンターが図書館内に出来たことで、図書館棟でワンストップの学修支援を行うことが出来るようになりました。



## 聖学院大学

### 【陸上競技部】 関東インカレ・日本学生個人で活躍

第105回関東学生陸上競技対校選手権大会(5/21~24・カンセキスタジアムとちぎ)男子2部400mに池田康生さん(心理福祉学科4年)が出場、自己記録を更新し47.58秒で3位に入賞しました。池田さんは今大会で関東インカレ4大会連続出場、3大会連続入賞を果たしました。

2026日本学生陸上競技個人選手権大会(4/25~26・レモンガススタジアム平塚)では女子三段跳決勝に佐藤友海さん(国際文化学科3年)が出場するなど、学生たちは競技と学業を両立しながら、日々の活動や大会に向けての練習を通じて最後まで諦めない強い精神を養っています。学生の更なる活動に皆様のご声援をよろしくお願いいたします。



池田康生さん(男子400m)



佐藤友海さん(女子三段跳)

## 聖学院中学校・高等学校

### 将棋界で活躍する聖学院出身棋士6名が懇親会 ——渡辺明九段の呼びかけで実現した 母校を愛する卒業生の絆

渡辺明九段（96回生）の呼びかけにより、聖学院出身の現役棋士6名による懇親会が開催されました。宮田敦史七段・金井恒太六段・石田直裕六段・吉池隆真四段・小窪碧四段が一堂に会し、在学中のエピソード、現在の学校の様子、そして変化し続ける将棋界の課題と未来について率直に語り合いました。「時代についていくために変化し続ける必要がある」との言葉に象徴されるよう、母校で育まれた探究心と挑戦する姿勢が、プロとして活躍する棋士たちの根底に今も息づいていることが伝わる、温かな集いとなりました。



左から  
宮田七段、吉池四段、小窪四段、  
渡辺九段、金井六段、石田六段

## 聖学院大学出版会

### 田澤薫著『子どもの主体を育む保育 ——興望館セツルメント史にみる子育て 家族の支援』（聖学院大学研究叢書12） が出版されました

1920年代の日本にあって、親とは異なる専門職が乳幼児に関わることで子どもの意思に向き合う保育に取り組んだ興望館セツルメント。厚生省児童局吉見静江保育課長の論説を踏まえ、吉見が戦前・戦中に担った興望館セツルメントの実践から、子どもの主体性を尊重する保育と子育て家族の支援を跡付けます。次世代が築く社会に向け、子どもの主体形成を鍵として、史的検討から今後の保育を考える一冊です。



ほかに、2025年12月には、聖学院大学におけるキャンパス伝道をまとめた、菊地順著『十字架の言葉——キャンパス伝道に召されて』も発行されています。

## 聖学院中学校・高等学校

### 女子聖学院中学校・高等学校

### 聖学院小学校

### 聖学院大学

### 英語で世界の社会課題に挑む ——第6回SDGsスピーチコンテストで 高校生たちが情熱のスピーチを披露

2月9日（金）、聖学院小学校を会場に第6回聖学院SDGs英語スピーチコンテストが開催されました。聖学院・女子聖学院の高校2年生計10名が英語で貧困・伝統哲学・ネパール支援・ミャンマー問題など多彩な社会課題に挑みました。英語での司会進行という大役を担ったのは聖学院小学校児童です。その見事な司会のもと、最優秀賞受賞者をはじめ、帰国生でない生徒たちの流暢な英語発信力に驚きと称賛の声が上がりました。社会問題と真摯に向き合い、英語で世界に発信する力を育む聖学院の教育が着実に実を結んでいます。



詳細はウェブサイト  
記事をご覧ください

## 女子聖学院中学校・高等学校

### 生徒が考え、発信し、形にする！ 目の健康を守る産学連携プロジェクト

本校では2025年10月に全国で初めてサングラスの着用自由化宣言がなされました。約600名が一斉にサングラスをかけるセレモニーでは会場に笑顔と歓声が広がり、新聞やテレビなど多くのメディアにも取り上げられました。

同時に、中1から高2の生徒によるプロジェクト「JSG "ME"RAI Project」が発足。メガネブランドZoffへの企業訪問で商品開発・マーケティングの視点から学びを深め、課題発表会も実施。PTA総会や外部イベントでも生徒自身がプレゼンテーションを担当し、「紫外線から目を守る」大切さを広く発信しました。

そして、対話と試行錯誤を重ねた末、制服に似合う本校オリジナルのサングラスが完成。2026年5月より販売がスタートしました。生徒たちのさらなる活躍と活動の広がりを期待しています。



## 聖学院幼稚園

### 春の親子遠足（新宿御苑）

毎年5月中旬に出かけている春の遠足。近年は気温が高く熱中症の心配があったので、今年は時期を早め4月28日（火）に実施しました。前日は大雨、夕方には大きな虹が見えた日で、お天気になることをお祈りしました。当日は見上げると青い空！たくさん



さんの木々と芝生、緑に囲まれ、心地良い風も吹いていて、さわやかな遠足日和でした。学年ごとに親子で身体を動かして遊んだり、温室やバラ園へお散歩に出かけたり、いっぱい動いてからのお弁当。お外で食べるお弁当は美味しいね！芝生の上を走りまわったり、ゴロゴロ寝てみたり、自然の中で過ごした時間でした。新年度が始まってすぐの実施で、子どもたちも保護者も仲良くなる（親睦を深める！）遠足となりました。

## 聖学院小学校

### 2年生 自分で育てた大豆で 「きなこ作り」に初挑戦

2年生は5月に山形県・いとうファームから大豆博士の伊藤先生をお招きし、「いのちの授業」をしていただきました。その日、自分の鉢に「大豆」を蒔いて大切に育て、秋に収穫しました。1月21日（水）、大豆の学びの最後は「きなこ作り」。手作りの白玉団子にまぶしてみんなで食べるのがゴールです。1階オーリーホールでお手伝いのお母様たちの力を借り、腫を輝かせながら挑戦。校内中に大豆を煎ったかぐわしい香りが漂って、他学年の児童たちも大勢のぞきにきました。すり鉢とすりこぎですりつぶすのは大変でしたが、交代しながら協力して楽しみ、きなこをまぶした白玉団子を幸せいっぱいの笑顔で味わっていました。



## 聖学院みどり幼稚園

### ホームカミングデー『つくしの会』

4月29日（水・祝）、聖学院みどり幼稚園のホームカミングデー『つくしの会』が開催され、多くの卒園生とのうれしい再会を果たしました。当日は、この春卒業したばかりの小学1年生から中学生まで100名を超え、保護者の方々も合わせると、総勢200名もの皆様が帰ってきてくれました。懐かしい園舎や園庭には、当時と変わらない、弾けるような笑顔と歓声が溢れ、共に温かいひと時を過ごしました。幼児期の教育・保育は人生の土台を形作る大切な時間です。神さまと周囲の豊かな愛に支えられていることを再確認し、つながり続け、喜び合える場所でありたいと願っています。※毎年「海の日」（今年は7月20日・月祝）には高校生以上を対象にした「同窓会」を行います。ぜひお越しください！



## 聖学院大学

### 女子聖学院中学校・高等学校

### レバノン杉植樹式が行われました

2月25日（水）、恵みの雨の降る中、聖学院大学エルピス館食堂前にて、「2025年度 レバノン杉植樹式」が執り行われました。レバノン杉は、聖書に70回以上登場し、神の栄光や高貴さを象徴する神聖な樹木です。植樹された苗木は、聖書植物研究をされている女子聖学院中高園芸ボランティアの島田洋子さんが、西南学院大学聖書植物園より分けていただいた苗木を大切に育ててきたものです。「神を仰ぎ 人に仕う」を建学の精神とする聖学院にふさわしい樹木として、大学キャンパスに根づくことを願い、植樹されました。



## 学校法人聖学院

### 田村綾子理事長が老川祥一読売新聞 本社グループ代表取締役会長を表敬訪問

5月15日（金）、田村綾子学校法人聖学院理事長が、聖学院中高第53回卒業生である老川祥一読売新聞本社グループ代表取締役会長・主筆・国際担当（ジャパン・ニュース主筆）を表敬訪問しました。今回の訪問は、同じく聖学院中高卒業生で元聖学院中高同窓会長の前田永喜ASF推進委員長と老川会長が同級生であるというご縁から実現したものです。当日は和やかな中にも、主筆としての老川会長の矜持に触れる印象深いひとときとなり、また発刊直後のご著書をご恵贈いただきました。



左から、老川祥一氏、田村理事長、前田永喜氏

## 大学からのお知らせ

### 2027年4月 政治経済学科新コースはじまる

変化が激しく、先の見えない時代。社会で求められるのは、課題を発見し、解決に向けて主体的に動き出す力です。政治経済学科では、「経済経営」「公共政策」「国際キャリア」の3つのコースを設置し、将来の進路や関心に応じた専門的な学びを実現します。

1年次は各コースの分野を幅広く学び、自分の興味や適性を見極めたうえで、2年次からコースを選択。フィールドスタディや企業・自治体との連携など、実社会とつながる実践的な学びを通して、自ら考え行動し、社会に貢献できる力を育てます。



講義タイトルや詳細はHPをご覧ください

# ASF NEWS

## 賛助広告について

オール聖学院フェローシップ(ASF)とは聖学院と関わりのあるすべての皆様のことを示します。

卒業生、在校生とその保護者、教職員の皆様はもちろん、日頃より聖学院各校の学校運営に様々な形で携わっていただいている企業様、卒業生や保護者が経営される企業様など、すべての皆様が聖学院の仲間(フェローシップ)であると思っています。

今回も、聖学院フェローシップとして、多くの企業様より賛助広告へのご協賛をいただいております。次ページ以降で紹介していますので、ぜひご覧ください。

### ASF NEWS

## 賛助広告募集のご案内

ASF NEWSでは、毎号賛助広告を募集しております。企業・団体の皆様には、広告掲載についてご検討いただきますよう、お願い申し上げます。詳しくはASF事務局までお問い合わせください。

#### ●ASF NEWSについて

発行部数 約37,000部 ※発行部数は変動することがあります。

発行予定日 毎年6月中旬～下旬

対象読者 聖学院各校卒業生、在校生保護者、ASF会員、教職員、その他

広告申込先  
(お問い合わせ先)

掲載のお申し込みは、発行予定日の2か月前より受け付けいたします。掲載スペースにより料金が異なりますので、詳しくはお問い合わせください。

学校法人聖学院広報センター ASF事務局

TEL: 03-3917-8530 (平日9:00~17:00)

〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 E-mail: pr\_h@seigakuin-univ.ac.jp

# パソコンやスマートフォンでも NACK5をお楽しみください!

radiko.jp

埼玉・東京・神奈川・千葉・群馬・栃木・茨城で  
無料配信中。月額 350 円（税別）のエリア  
フリー聴取サービス「radiko.jp プレミアム」  
では、「radiko.jp」に参加している  
ラジオ局の番組を全国各地どこに  
いても聴くことができます。



<http://radiko.jp/#NACK5>

## 公式SNS

最新情報を発信しています。  
是非チェックしてください!



@fm\_nack5



FM Nack5 79.5MHz



[www.nack5.co.jp](http://www.nack5.co.jp)



pure  
*Hawaiian*  
WATER

**TOELL**

フリーダイヤル **0120-15-7777** **トール**

受付時間 9:00~19:00 (日曜日 9:00~17:30) 株式会社トール 横浜市港北区高田西1-5-21 東証上場 3361



# Build the Culture.

人がつくる。人でつくる。

人の営みを、ひとつひとつ。

時代は変わる、課題も変わる、  
人も、技術も、もちろん変わっていく。  
わたしたちが変わってはいけないのは  
建設を通して「人の営みをつくる」という姿勢だ。  
建物からはじまる物語が、人と人をつなぎ、  
街ににぎわいを生んでいく。  
思い出や、文化を生み出す場所となる。  
戸田建設は、これからも  
人の営みを建てていきます。



戸田建設 Build the Culture 特設サイト

## すべては、挑戦から。

変化の速い時代に、  
私たちができることは何か。  
その問いに、正解はない。  
だからこそ、私たちは挑み続ける。  
一つひとつの配送に、誇りを持って。  
その積み重ねが、未来をつくると信じて。  
まだ見ぬ景色を目指して、今日も、前へ。



**株式会社森田産業運輸**

〒123-0872 東京都足立区江北2-25-10  
TEL.03-3890-6666 FAX.03-3854-3333

関連会社

**Yasu**

株式会社ヤスコーポレーション

**Km**

株式会社ケイ・エム

**TKNS**

東京国際ニュースサービス株式会社





THE QUALITY GRAPHICS

上品、シンプル、  
スタイリッシュなデザイン

ポスター／チラシ・DM／ロゴ／web／  
UI／パッケージ 他

株式会社 キュー・ジー  
〒169-0075 新宿区高田馬場1-16-13 103  
phone : 03-5341-4179 <https://qgp.co.jp>

## 庭師の技が冴えるガーデン

<http://www.obazouen.co.jp>



当社に伝わる伝統・技術・技能を社員一人一人が発揮し  
よりよい仕事をより安くお客様にお届けいたします

**株式会社 大場造園**

〒168-0064 東京都杉並区永福2-47-12  
TEL 03-3321-8688 FAX 03-3325-5329  
ISO9001・2015認証取得

ひとつまみの幸せ。

**なとり**

一度は食べていただきたいシリーズ

おかげさまで、発売 **20周年**



写真はイメージです。

**北区SDGs認証**  
株式会社なとりは、「東京都北区SDGs推進企業」です。

**株式会社 なとり**  
代表取締役 名取 三郎  
会長兼社長 東京都北区王子5-5-1



## 未来に、エールを。



**KANKO**

(公財)日本中学校体育連盟推薦  
(公財)日本中学校体育連盟シンボルマーク付

(公財)全国高等学校体育連盟協賛  
インターハイ協賛

(公財)全国高等学校文化連盟協賛  
All Japan Senior High School Cultural Federation

**東京菅公学生服株式会社**

私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



もっと、ここにいたいをあなたへ



おかげさまで創業60年

「もっと、ここにいたい」をあなたへ

**IZU 伊豆商事株式会社**

タイル・間仕切・空調設備・住宅設備の専門商社

〒130-0023 東京都墨田区立川3-4-6

e-mail: izu\_info@izus.co.jp

Web: <http://www.izus.co.jp/>

営業所案内

東京営業部(広域・城東・大塚・調布)  
埼玉(草加)・千葉・市原・佐原

聖学院大学教育支援会議 幹事

**FUJIFILM**  
Value from Innovation

富士フイルム ビジネス イノベーション株式会社

富士フイルム ビジネス イノベーションジャパン株式会社  
埼玉支社

〒330-6028 埼玉県さいたま市中央区新都心11-2

[fujifilm.com/fb/company/fbj](http://fujifilm.com/fb/company/fbj)

通信コスト削減、業界初の  
回線管理業務コンサルティングシステム

**「回線秘書」**

特許第4868263号

豊富な経験と実績、高い技術力で  
トータルにサポート

ナースコール 電話設備 ネットワーク  
監視カメラ 施工 保守 コンサルテーション



情報と通信の  
**電通工業株式会社**

〒140-0011 東京都品川区東大井5-11-2

TEL. 03-5479-3711 (大代表)

<http://www.dentsu.ne.jp/>

## 練習生募集中!!

※キャンペーン中につき、詳細はお電話でお問い合わせください。

プロ・アマチュアボクサー志望、プロライセンス取得、体力作り・健康維持、ダイエット・シェイプアップ、ストレス・運動不足解消…あなたの目的にあったトレーニングができます!

女性ひとりでも安心☆ 気軽にエクササイズ♪



金子兄弟は聖学院を応援しています。

会長の健太郎(左)は73期生、  
副会長の賢司(右)は76期生。



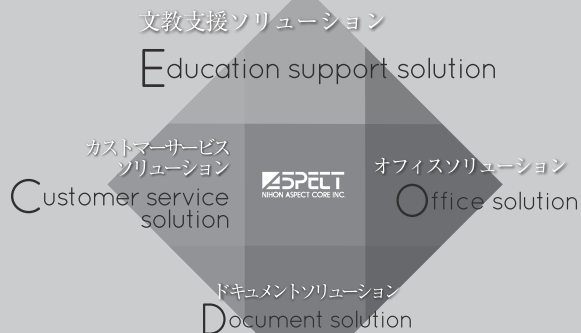
**金子ボクシングジム**

KANEKO PROMOTION CO.,LTD. KANEKO BOXING GYM

住所/東京都世田谷区北沢1-45-23

電話/03-3460-8353

## アウトソーシングで、叶える



NEXT ▶ OUTSOURCING

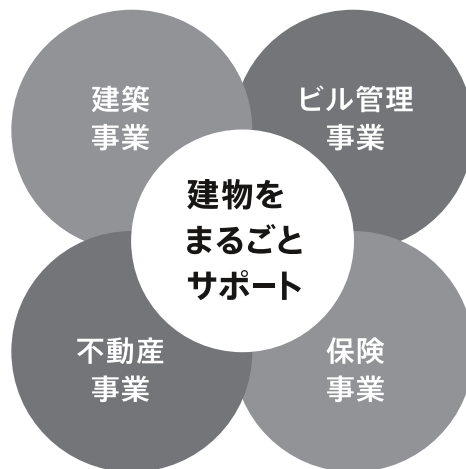


日本アスペクトコア株式会社

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-3  
日本ビルディング九段別館6階  
TEL:03-5212-7651 FAX:03-5212-7650



ライフサイクル  
マネジメントで、  
お客様の  
資産価値を  
守ります。

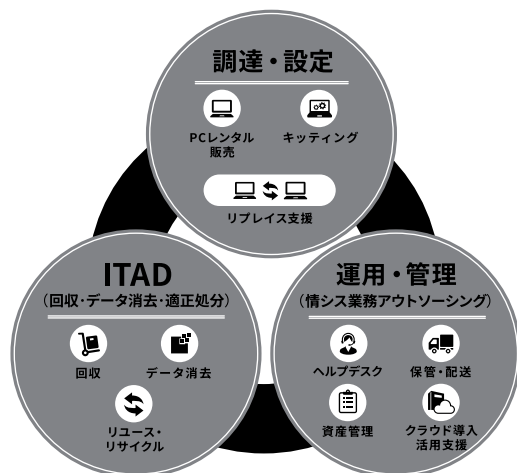


戸田ビルパートナーズ株式会社

代表取締役社長 有馬 弘  
東京都港区台場2-3-1 トレードピアお台場21階  
TEL:03-6628-5021

## 情シスのPC運用を ワンストップ支援

PC-LCMサービス アウトソーシングメニュー



お困りごとはぜひお気軽にご相談ください。

株式会社パシフィックネット

(東証スタンダード上場 証券コード: 3021)

本社: 東京都港区芝 5-34-7 田町センタービル6階(受付)・12階

☎ 03-5730-1441 営業時間 9:00~17:45 (土日除く)



ISO 9001/ISO 27001

Q パシフィックネット

<https://www.prins.co.jp>



街と建物の、  
その先を見つめる、  
私たちです。

私たちは知っています。

人が年齢を重ねるごとに、

深みや味わいを増していくように、

街も、建物もまた、時とともに、

魅力を積み重ねていく、と。

これからも私たちはお客様に寄り添い、

お客様の「安全・安心」と「快適」を提供し、

街と建物の「輝き」を守ってまいります。

あしたを、つなぐ。野村不動産グループ  
野村不動産パートナーズ

教育備品総合商社

# ヤマ産業株式会社

学びの場づくりの一翼をになって、  
教育現場からのきびしい要求にお応えします。

■ スチール・木製家具  
■ 各種特別教室  
■ 黒板・スクリーン  
■ 学校用品

■ 室内装飾  
■ 図書館設備  
■ 視聴覚設備  
■ OA事務機器



〒112-0015

東京都文京区目白台3-26-8

TEL : 03 (3941) 7258

FAX : 03 (3943) 3826

メディアコミュニケーションで笑顔を創る。



More Communication,  
More Smile



望月印刷株式会社

MOCHIZUKI PRINTING CO., LTD.

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-195-1 大宮ソラミチKOZ 11F  
TEL:048-741-9300 FAX:048-641-5005



オフィスの悩み解決します!! オフィス見学、随時受付中

## 石山商工株式会社

〒360-0024 埼玉県熊谷市問屋町2-4-18 ソシオ熊谷情報センタービル6階  
TEL 048-524-5581 FAX 048-524-0102  
<https://www.ishiyama-s.co.jp/>

「温かくおいしく安全な給食を」

## 株式会社アイコーメディカル

〒485-0803 愛知県小牧市高根1-200 TEL 0120-332-354(フリーダイヤル)  
<https://www.aiko-medical.co.jp>

学ぶ旅行を通じて異文化理解の架け橋に

## 株式会社ATI

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-4-1 神田岩本町プラザビル8階  
TEL 03-5829-6396

## 株式会社伊藤園ネオス

〒337-0008 埼玉県さいたま市見沼区春岡3-20-4  
TEL 048-687-8661 FAX 048-682-3722  
<https://www.itoen-neos.co.jp/>

廃棄物を生かすカー白井グループ

## 白井エコセンター株式会社

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目10番14号 ぼんだいビル3階  
TEL 03-3897-1327 FAX 03-3857-0237  
<https://www.shirai-g.co.jp>

## コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社

〒107-6211 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー  
TEL 0800-919-0509  
<https://www.ccbji.co.jp/>

## 日勝スポーツ工業株式会社

〒154-0005 東京都世田谷区三宿2-36-9  
TEL 03-6805-2106 FAX 03-3410-7314  
<https://www.nissho-sports.com/>

## 株式会社西武総合企画

〒359-1131 埼玉県所沢市久米546-1  
TEL 04-2995-8138 FAX 04-2992-6609  
<https://www.seibubus.co.jp/recruit/bus/>

## 株式会社NON

〒114-0002 東京都北区王子2-22-7-6F  
TEL 03-6903-3040 FAX 03-6903-3041  
<https://www.non-co.com/>

## 有限会社日東クリーンベスト

〒114-0002 東京都北区王子5-20-18-505  
TEL 03-3914-1168 FAX 03-5390-2309

Protection Technology Service

## 株式会社プロテックス

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-15-1 渋谷クロスタワー15F  
TEL 03-5464-5281 FAX 03-6450-6280  
E-mail [shibuya@protecs-kk.jp](mailto:shibuya@protecs-kk.jp)

室内装飾

## 株式会社 フタバ アイディ

〒116-0012 東京都荒川区東尾久1丁目22番5号  
TEL 03-3809-5505 FAX 03-3893-9530

聖学院小学校 女子聖学院 制服指定店

## 株式会社ヨシザワ

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目4-15 八重洲通ビルヂング 9F  
TEL 03-3271-4996 FAX 03-3281-8331  
<http://www.yoshizawa-uni.co.jp>

## 株式会社防災整美

〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町6-5岩清日本橋ビル7F  
TEL 03-5695-1781 FAX 03-5695-1785

---

|      |                                                        |
|------|--------------------------------------------------------|
| 発行   | 2026年6月25日（年1回発行）                                      |
| 通巻   | 64号                                                    |
| 発行所  | 学校法人聖学院広報センター 〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 TEL：03-3917-8530 |
| デザイン | 株式会社QG                                                 |
| 印刷所  | 株式会社技秀堂                                                |

---

Special edition

# 聖学院歴史探訪

## 特別編

### 聖学院の パイプオルガン

-想いをつなぐ聖なる調べ-  
聖学院が誇る「2つの賜物」への  
感謝と共に



女子聖学院パイプオルガン



聖学院大学パイプオルガン

聖学院の120年を超える歴史に、いま新たな息吹が吹き込まれています。それは、皆様の温かな祈りとご支援によって実現した、2基の壮大なパイプオルガンの音色です。PTAや卒業生、後援会、そして関係各所の皆様が長年積み重ねてこられた募金活動や寄付、ご奉仕という尊い想いと志が実を結び、私たち聖学院にこの「賜物」が与えられています。

1基目は1993年、女子聖学院チャペルに奉献されたジグモンド・サットマリー氏監修でドイツの「フィッシャー＆クレマー社」制作によるオルガンです。その2,048本のパイプと29のストップ（音色）が紡ぐ繊細な響きは、30年以上にわたり学校の賛美の場を彩ってきました。

そして2023年、法人創立120周年を記念し、聖学院大学チャペルに待望の2基目が誕生しました。フランス創立の「ガルニエ・オルガヌム社」制作によるオルガンは、礼拝堂用としては国内最大級の規模を誇る2,836本のパイプと40のストップを備えており、その堂々たる佇まいは、まさに聖学院の歴史の節目を彩るにふさわしい存在感を放っています。これらは日々の礼拝や教育活動のみならず、地域に開かれた本格的なコンサートなども通じて、聖学院に新たな歴史を刻み続けています。

皆様と共に歩む聖学院の未来。そして皆様の志が紡ぐこのパイプオルガンの物語の続きや、最新のコンサート情報などは、ぜひ各校の公式サイトでご確認ください。聖なる音色が、今日も皆様の心に届きますように。

参考：『女子聖学院の歴史 1988年～2020年』城築昭雄編著、2025年、pp.53-54。／冊子『女子聖学院パイプオルガン建造の歩み』小倉義明著  
『ASF NEWS 1993 Dec. No.11』聖学院法人本部理事長室編、1993年、pp.8-9。／『聖学院キリスト教センター ホームページ』

## 学校法人 聖学院

理事長／田村 綾子 院長／菊地 順  
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-8351  
ホームページ <https://www.seig.ac.jp/> E-mail [pr\\_h@seigakuin-univ.ac.jp](mailto:pr_h@seigakuin-univ.ac.jp)

### ■さいたま上尾キャンパス

#### 聖学院大学

・政治経済学部／政治経済学科  
・人文学部／国際文化学科 日本文化学科 子ども教育学科  
・心理福祉学部／心理福祉学科  
学長／小池 茂子 創立／1988年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 Tel 048-781-0925

#### 聖学院大学大学院

政治政策学研究科／文化総合学研究科／心理福祉学研究科  
創立／1996年 〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1 Tel 048-780-1801

#### 聖学院みどり幼稚園

園長／赤田 直樹 創立／1978年  
〒331-0045 埼玉県さいたま市西区内野本郷820 Tel 048-622-3864

### ■駒込キャンパス

#### 聖学院 中学校 高等学校

校長／伊藤 大輔 創立／1906年  
〒114-8502 東京都北区中里3-12-1 Tel 03-3917-1121

#### 女子聖学院 中学校 高等学校

校長／塚原 隆行 創立／1905年  
〒114-8574 東京都北区中里3-12-2 Tel 03-3917-2277

#### 聖学院小学校

校長／田村 一秋 創立／1960年  
〒114-8574 東京都北区中里3-13-1 Tel 03-3917-1555

#### 聖学院幼稚園

園長／小久保 京子 創立／1912年  
〒114-8574 東京都北区中里3-13-2 Tel 03-3917-2725

### ●インターネットでの寄付のお申し込みについて

クレジットカード（JCB、VISA、MasterCard、アメリカン・エクスプレス、ダイナースクラブ）での寄付が可能です。下記URL、二次元コードにアクセスください。

<https://www.seig.ac.jp/asf/>



### 住所変更・広報誌の発送停止・PDF配信への変更・お問い合わせ

<https://www.seig.ac.jp/asf/contact/>

学校法人聖学院ASF事務局

Tel 03-3917-8530（月～金 9:00～17:00）

